



百人一首と CL(四)

2016

David K. Reynolds

この随想集は日本の百人一首が元になっています。どの作者の詠んだ一首か、捜し当てるのも一興です。アメリカ・ロスアンゼルス CL インストラクター Paul Kroner さんが世界中のインストラクターに毎月発信している“CL News”letter”に一首ずつ掲載されています。

別の自分がさせる
約束には十分気をつけて
誓いを守るよう求められるかもしれない

目につかない背の低い雑草
根は広くのびている
たんぽぽを丸めながら
す速く引きぬく

人は自分を覚えている
自分がしたこと
感じたことではない
愛や怒りであえぎながら
自分の立派な目的を離さない

愛の終わりは日没のよう
夜のおとずれと次の愛の芽生え
夜明けは時期によって遅くに来る

その日のできごとが微笑と笑いをもたらす
ぎっしり詰まったユーモアに気づいている
気づいていることに気づく
しわのある目でありがたい

午後10時30分に電話のベルが鳴る
間違い電話
迷惑をかけられたと考えるか
交換台の人がちょうど今ほかの誰かに電話をしたかもしれない

私たちは二度と再び会わないかもしれない
悲しみはなんとか耐えられる
時間の流れでおさまる
願いも長年の間に衰える
思い出をだれかに打ち明ける？

腹立ちや憤慨と悪意が睡眠を妨げる
近づく快い睡魔は解決策にならない
誰が苦しんでるって？

すべての先見の目と計画のために
今日何が待ち受けるかまったく知りえない
周りを観察して、事実を抱きしめて、踊る
音楽が自分を動かす

常に私の家はきちんとしている
実はほとんど誰も来ない
が、家をだいじにする

岸壁が波で打ち砕かれる
何百年もたっている岩
人ははるかに短い年月、人生の波に耐えている

眠るために完ぺきな姿勢をとっても
眠りは私を避けていく
心がかけ巡る毎日で
体は怠けていた

(アメリカ・オレゴン州CLセンター所長)